

【様式2】 令和3年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

県・市・私	県立	学校名	瑞浪高等学校
項 目	○	①	産業界や地域団体等との連携により、地域資源（恵み）を発見・活用する実践
	○	②	地域を学習のフィールドとし、地域の課題を発見・解決する実践
		③	グローバルな視点を持ち、地域課題解決型の探究的な学習を推進する実践
	○	④	自治体や、高等教育機関、企業等との協働により地域の魅力を知り、課題を発見・解決する実践
活動のねらい	(1) 地域の方との関わりを通じて、自己の資質や在り方生き方を考えるとともに、自己表現力やコミュニケーション能力を培う。 (2) 地域の中で主体的に課題解決を行うことで、地域についての考察を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材を、地域の中で育てていく。		

活動の特色

1 地域密着の活動と主体的な実践

○地域課題への気づき

- ・地域が抱える地域課題（プログラム）を、地域の方（パートナー）に提起してもらい活動する。
- ・教室を飛び出し、体感する学びの場を現地に求めたフィールドワークを取り入れ、自分の目で地域を見つめ、地域課題を考察する視点を養う。

○地域と学校を結ぶ外部人材

- ・パートナーと学校をつなぎ、諸活動の運営・調整にあたるコーディネーターに外部人材（コミュニティキャンパス瑞浪）を活用する。
- ・本校教員は、コーディネーターと連携して生徒の活動を支援する。

○互恵性のある協働的な関係づくり

- ・生徒は片務的に学びの場を提供されるのではなく、課題解決を提案し協力することで互恵性の関係を構築する。

○活動への主体的参加

- ・「総合的な探究の時間」を中心とするが、プログラムによっては自宅でのオンライン会議や休日など、学校以外にも活動があり、生徒は主体的に参加した。



2 各学年の取組

- ・1年次では、8～10のプログラムの中から興味を持ったものを選び、地域に出かけて実践活動を行う。今年度は駅前のにぎわい創出など、瑞浪市が抱える様々な課題に取り組んだ。
- ・2年次では、地域課題の中で自らの問い（マイテーマ）を立て、その解決策を探究する（マイプロジェクト）。地域に出かけ、情報収集→整理分析→課題の再設定を繰り返しながら実践活動を行う。
- ・3年次ではさらに課題を焦点化し、一人一人が自らの視点で取組を深化させた。また、一部の活動は現2年生に引き継ぎ、継続的に地域課題の解決を目指すことになった。

3 今年度のプロジェクト（一部）

- 「苧びす屋を使ってみよう！（駅前で開催するまちづくり）」（1年生）
- 「ホノポーノポーク大作戦」（2年生）
- 「あつ森で瑞浪を盛り上げよう」（3年生）

4 学びの成果を発表する「卒業制作・実践活動発表会」

- ・1月に「卒業制作・実践活動発表会」で各学年代表が発表する。例年、瑞浪市総合文化センターで開催していたが、改修工事のため今年度は本校体育館にて実施。オンライン配信やDVDによって保護者や地元中学生にも見ってもらう予定である。
- ・活動や発表を通じて生徒たちは自信をつけ、昨年度の発表会では、大勢の前でも堂々と自分の言葉で地域課題や自分の考えを発表し、達成感や自己有用感を感じることができた。「もう少し個人的にやりたかった」「もっと自分から動けた」など、前向きな反省も寄せられた。

5 キャリア形成につながるふるさと教育

- ・1期生である生徒が3年生となり、コロナ禍の影響を受けながらも今年度は活動の完成年度となった。
- ・3年生ではこの活動を通じて培ったコミュニケーション能力や活動の成果が面接試験で生かされ、これまでの自己の取組に自信をもつことができた。また、大学に進んでも引き続き活動する予定の生徒もいる。

【参考資料】

(1) (1) 「【46 瑞浪 02】 R03 地域連携プロジェクト」

※(1)は「地域連携プロジェクト」の概要と今年度の取組をまとめたもの。

(2) 「【46 瑞浪 03】 R02 卒実 1 年ビオトープ」

(3) 「【46 瑞浪 04】 R02 卒実 2 年 02 ヨウギョウ」

(4) 「【46 瑞浪 05】 R02 卒実 2 年 04 MY SPACE MIZUNAMI」

※(2)～(4)は生徒が作成し、昨年度の「第 32 回卒業制作・実践活動発表会」(令和 3 年 1 月 21 日・瑞浪市総合文化センター)にて発表したもの。